

<サロン9条> 第338回例会 (2019.9.10)

テーマ：「〈表現の不自由展・その後〉の中止問題を考える」 25名

話題提供：吉田千秋さん（岐阜平和美術展実行委員会会長）

8月1日から始まった国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」の企画展「表現の不自由展・その後」が、突然3日に中止発表されました。

「表現の不自由展・その後」とは、各地で展示が拒否された作品を集めて、その経緯や作品を多くの人に見て考えてもらおうという、とても重要な意味を持つ企画でした。

2日目に実行委員会会長代理である河村たかし名古屋市長から「平和の少女像」は日本人の心を傷つけるものとクレームがつけました。

その翌日（3日目）にこの展示を見に行った吉田さんは、第50回ぎふ平和美術展（8月14日～18日）を目前にして、多くの人にこの問題について考えてもらおうと会長声明を出しました。その要約は次のようです。

☆多くの方が静かに真剣に観ておられ、一部騒ぎ立てる人もいたが、周りの人にとがめられていた。特に少女像の横にすわって記念撮影する人が続き、関心の高さを感じた。

☆中止の直接の理由は、大量の抗議電話や「京アニ」放火に似せたテロ予告によって安全が確保できないというものであった。表現の自由、言論の自由、思想の自由を暴力で圧殺しようとする行為は許されない。

☆「公金投入」を理由に河村氏や菅官房長官など公的権力を持つ人たちから、企画内容に政治的な圧力が加えられたことは問題である。

☆実行委員長の河村愛知県知事は暴力に屈するかたちで中止発表をしたが、河村市長の発言に対して「憲法21条の検閲の禁止」に反していると指摘。これは正当な見解である。

☆今回の中止決定についてこの企画展への参加作家たちの意見を聞いていない。早急に意見を聞いて今回の措置について再判断すべき。

☆この「企画展」中止の決定を撤回し、早期に再開すべきである。

声明の最後に、この問題が安倍政権による侵略戦争否定、一方的な韓国批判の政治情勢の中でおこされたことは注視すべき。こういう状況だからこそ、芸術・文化の創造を通して平和への願いを一層強め、日韓両国の対話を広め、深めることが大切であると結んでいます。

資料には、「表現の自由回復のために」と題した表現の不自由展実行委員会の声明と、代表的展示6点の写真、そして「美術館から作品消える社会誰がした」の朝日新聞記事も添付されました。

吉田さんは更に、憲法21条は、戦前の「表現の自由」への圧殺を二度と起こさないための条文であり、言論の抑圧は戦争を起こすためのものである。政治は教育、芸術を支援するがその内容に干渉はしないことが原則である。芸術監督の津田氏の発想のこの企画はすばらしかったが、準備不足、段取り不足であった。9月末までに検証委員会の中間報告が出ることになっているが、それまでは何もやらないのか？この問題は社会的、政治的問題となっ

ている。国際的にも注目されている。津田氏は、毅然として対処すべきである——と付け加えられました。

吉田さんからの話題提供に続いて、丹原美穂さんから「海外からも日本政府に働きかけてもらえるように、国際機関に、この間の経緯や日本の言論の自由が危機的状況にあることを報告し、再開に向け応援してほしいと要望した」と報告がありました。

後半は参加者が意見交流しました。

「少女像は『平和の少女像』であり、慰安婦像ではない。」「安倍官房長官の頃から政権側がNHKに介入。それ以来、慰安婦への敵対的意識が強まった。」「前もって地元の支援を得てやればこんな悲惨なことにはならなかったはず。」「日韓市民交流を実質的に行っているところでは、こういうイデオロギー的なことは起こらない。」「企画展の最中、美術館の若い学芸員が街宣車や抗議電話の対応をし、疲れ切っていた。現場に向き合っている若者を守ることも考えてほしい。」「ドイツで『戦争と女性』という企画展があり少女像のミニチュアが展示されていたが、何日か後に日本から取り除いてほしいと要請があり、取り除かれたらしい。」「日本では少女像を慰安婦像だと思う。日本人はもっといろいろな機会に学習する必要がある。政府の情報操作により、マスコミを使い『慰安婦像』は日本を攻撃するためのものと思わせている。」「あの戦争をどうとらえるかという事実認定を国家的にしていない。根本的な反省ができていないことが問題。」「少女像が日韓問題の象徴、プロバガンダにされている。それを批判すると、反日だ！となる。」「(若者は韓国と違い何も教えられていないという意見に対して)若者には、小中高のとき、無理やり広島、長崎、沖縄を見せられてそれに耐えられない、もう血は見たくないという意識がある。」「ネット右翼は昔の右翼とは違い、日頃のうっぷん晴らしをしている。」「この企画はよかったが、その覚悟があったか？脅しに対して何もできなかった。河村市長の発言は市長としての資格も品格もない。今、政権に不都合なことはすべて抹殺される。」「憲法21条についても私たちは学んでいない。『表現の自由』とは何かこの機会に学びたい。京都大学の立て看板問題、その後どうなったのか？」「中止させられたのは脅迫のせいだが、そういう動きは内閣府と無縁ではない。韓国へ90%輸出していたものを止める、対話も拒否、徴用工最高裁判決をなかったことにしようとする圧力、嫌韓を作り出している。憲法改悪の動きとも連動している。」「もし自分の近くで起きたとき、いつも憲法にてらして考える必要がある。公民館が9条俳句掲載の官報掲示を拒否・・・ということは我々の身近にも起きそうなこと。この教訓は何かをはっきりさせ、自分もたたかいたい。」「少女像は、苦難の道を歩んだ印としての影や肩の鳥を見ても戦争中の少女の像と捉えるのが妥当。ネット右翼を使って組織的にこの企画をつぶしたのではないか？我々ももっと警戒心が必要。」「映画『新聞記者』を見た。内閣府の内調が世論・メディアを動かすことを画策している。」「実行委員会は再開に向けて動いている。」

最後に吉田さんは、相手は公権力、覚悟をもって行動し、力をつけ、力を合わせる事が大切です。がんばりましょうと結ばれました。